

**製品名: PKC  $\delta$  (リン酸化 Tyr64) ウサギポリクローナル抗体****カタログ番号: APRab05262**

研究使用のみ

**概要**

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	リン酸化
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、 $-20^{\circ}\text{C}$ で保存してください (12 ヶ月有効)。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:50-1:300
分子量	77kDa

**抗原情報**

遺伝子名	PRKCD
別名	PRKCD; Protein kinase C delta type; Tyrosine-protein kinase PRKCD; nPKC-delta
遺伝子 ID	5580.0
SwissProt ID	Q05655
免疫原	抗血清は、ヒト PKCD 由来の合成ペプチドの Tyr64 のリン酸化部位周辺に対して作製された。アミノ酸範囲: 30-79

**背景**

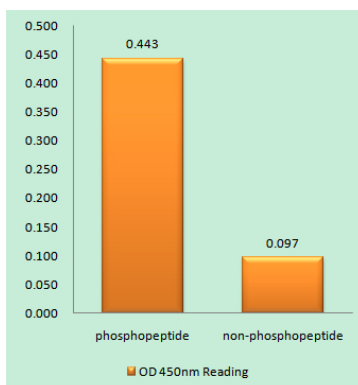
プロテインキナーゼ C (PKC) は、カルシウムおよびセカンドメッセンジャーであるジアシルグリセロールによって活性化される、セ

リンおよびスレオニン特異的なプロテインキナーゼのファミリーです。PKCファミリーのメンバーは、幅広いタンパク質標的をリン酸化します。また、多様な細胞シグナル伝達経路に関与することが知られています。PKCファミリーのメンバーは、腫瘍プロモーターの一種であるホルボールエステルの主要受容体としても機能します。PKCファミリーの各メンバーは特定の発現プロファイルを持ち、細胞内で異なる役割を果たしていると考えられています。この遺伝子によってコードされるタンパク質は、PKCファミリーのメンバーの1つです。ヒトとマウスの両方の研究では、このキナーゼがB細胞シグナル伝達、およびさまざまな細胞タイプの増殖、アポトーシス、および分化の調節に関与していることが実証されています。同じタンパク質をコードする選択的スプライシング転写バリエーションが観察されています。[RefSeq 提供、2008年7月],触媒活性: ATP + タンパク質 = ADP + リン酸化タンパク質。ドメイン: ホルボールエステル/DAG型領域1 (C1A) と2 (C1B) を含むC1ドメインは、ジアシルグリセロールセンサーです。ドメイン: C2ドメインはカルシウム非結合ドメインです。リン酸化チロシンを含むタンパク質に配列特異的に結合します。酵素制御: 完全に活性化するには、3つの特定の部位、Thr-507 (キナーゼドメインの活性化ループ)、Ser-645 (ターンモチーフ)、および Ser-664 (疎水性領域) がリン酸化される必要があります。機能: これはカルシウム非依存性、リン脂質依存性、セリンおよびスレオニン特異的な酵素です。PKCはジアシルグリセロールによって活性化され、それが様々な細胞タンパク質をリン酸化します。PKCは、腫瘍プロモーターの一種であるホルボールエステルの受容体としても機能する。B細胞機能の抗原依存的制御に関与する可能性がある。MUC1のC末端をリン酸化して、MUC1とβ-カテニンの相互作用を制御する。PTM: 活性化ループ内のThr-507がリン酸化される。自己リン酸化および/またはリン酸化される。Thr-507のリン酸化は起こるが、酵素活性の必須条件ではない。類似性: タンパク質キナーゼスーパーファミリーに属する。AGC Ser/Thrタンパク質キナーゼファミリー。PKCサブファミリー。類似性:1つのAGCキナーゼC末端ドメインを含む。類似性:1つのC2ドメインを含む。類似性:1つのタンパク質キナーゼドメインを含む。類似性:2つのホルボールエステル/DAG型ジンクフィンガーを含む。サブユニット:PDK1、RAD9A、CDCP1、およびMUC1と相互作用する。

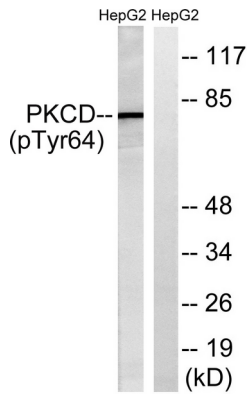
## 研究分野

微小管制御; アクチンダイナミクスの制御; 幹細胞経路; インスリン受容体; B細胞受容体; AMPK

## 画像データ



PKCD (リン酸化Tyr64) 抗体を用いたリン酸化ペプチド (リン酸化左) および非リン酸化ペプチド (リン酸化右) 免疫原の酵素結合免疫吸着測定法 (リン酸化 ELISA)



PMA 125 ng/ml 30分処理した HepG2 細胞ライセートの PKCD (リン酸化 Tyr64) 抗体を用いたウェスタンブロット解析。右レーンはリン酸化ペプチドでブロッキングされている。